

轉換契約の動向と コスト妥当性

佐藤翔

轉換契約

- 購読費用 + APCを一括契約
 - 所属研究者は論文にアクセスできる、だけではなく追加費用なしでハイブリッドOAに
- いずれは購読費⇒APCに全読み替え
 - そして完全OA雑誌に「轉換」する
- 完全OA雑誌でも一括契約は普及

独Max Planckの試算と提案

- 1論文あたり購読料は3,800ユーロ
- 1論文あたりAPC単価は2,000ユーロ
 - <http://dx.doi.org/10.17617/1.3>
- 現在の購読料を振り返れば追加のコスト無しでOA実現！
 - <http://www.berlin12.org/>

Plan S

- 欧州の研究助成機関等を中心とする、査読済み研究成果の2021年からの「完全即時」OA要求
 - 権利は著者が保持し、オープンライセンスでの公開を要求
 - 対象となる媒体についても要件を満たすことを要求
 - 恒久的ハイブリッドNG・APCの透明性確保
 - セルフアーカイブも即時公開・機能要件あり
 - 助成研究⇒媒体自体のOA転換を狙う
- 参考：船守美穂. 動向レビュー：プランS改訂版発表後の展開—転換契約等と出版社との契約への影響. カレントアウェアネス. 2020, no,346, p.17-24.

Plan Sの要点

- 「2021年から、助成に基づくすべての成果物は、OA雑誌で公開するか、出版後即座にOAリポジトリに掲載しなければならない」
- 著者が著作権を留保 + 出版物は全てCC-BY等のオープンライセンスに
- Plan Sの基準を満たしたOA発表の場の要件はcOAliton Sが決める
- APCの根拠に透明性がないとNG
- 大学等のポリシーもPlan Sに揃えて
- ハイブリッドOAは原則不可。ただし、転換契約はOK
- 違反は監視する
- インパクトファクターや出版者ではなく業績の本質を評価しよう
- 図書館のOA化は多少遅れてもやむなし

Plan Sが認める雑誌

- 完全OA（かつライセンスがオープン＋APCに透明性あり）
- 出版者単位の転換契約（Publish & Readなど）
 - いずれ完全OAに移行することが前提
 - 経過措置として、APC＋購読費の一括型契約を認める
- 転換モデル契約
 - 小規模出版社・雑誌向けにcOAlition Sと一緒にモデルを検討
- 雑誌単位の展開契約
 - APCと購読費の相殺制度などを設けること

Plan Sが認めるリポジトリ

- OpenDOARに登録されている・申請中である
- 恒久的識別子が付与される + バージョン管理がある
- 以下の要件を満たす機械可読・高品質なメタデータの付与
 - CC0（メタデータ自体が）
 - 出版者版とリポジトリ版双方の識別子を含む
 - リポジトリ版のライセンス情報
 - 助成金情報（cOAliton S参加機関分）
- 継続的にアクセス可能であること
- 問い合わせ先を設けること

轉換契約の普及 from ESAC

- **52** 出版社が契約実績あり
 - Elsevier、Springer Nature、Wiley
 - ACS、APS、ACM
- **37** の国・地域
- **392** の有効な契約
- 年**200,000**本以上の論文がOAに？

Plan S / 轉換契約普及の影響？

- OA論文の数・割合は増加
- コスト面は？…現状よくわからない

主要著名誌のAPC

- Nature : 170万円 (\$ 11,390)
- Cell : 117万円 (€7,800)
- Science : APC非導入
 - セルフアーカイブを認める

The Monitoring Framework

Priority Topic	Relevant impact on
Researcher Employment & Evaluation, and Journal choice	<ol style="list-style-type: none">1. Researcher career progression.2. Researcher geographic mobility.3. Researcher publishing practices.4. Collaboration between researchers (e.g. academic and non-academic; national and international collaborations).5. Changes to the academic evaluation system.6. The diversity of the research workforce.
Headline Topic (in alphabetical order)	
Costs & Resources	<ol style="list-style-type: none">1. Prices associated with OA publishing, and the transparency and equity of those prices.2. Administrative burden on researchers and research support staff.
Dissemination	<ol style="list-style-type: none">1. Visibility and reach of research publications.2. Nature of open repositories in aligning with Plan S mandatory technical requirements.
Funders	<ol style="list-style-type: none">1. Ability of funders to make a case for funding for research (e.g. to Government or Board).2. Partnerships between research funders.
Research Activity	<ol style="list-style-type: none">1. Nature, ownership and sharing of intellectual property arising from research.2. Inter- and multidisciplinary research.
Scholarly Publishing	<ol style="list-style-type: none">1. Changes to the sustainability of learned / scholarly societies.2. Publisher policies and practices.3. Diversity of publishing options available to researchers.4. Academic publishing towards OA models.5. Proportion of publications aligned with Plan S.

英国出版協会の主張

- UKRIポリシー（Plan S準拠）により
- 英国出版社は5年で20億～32億ポンドの損失？
- 大学図書館のコスト削減は年50万～300万ポンド
 - APC・フルOAコンテンツは購読カットを前提とする
- 「転換契約」を踏まえた主張では…？

<https://www.publishers.org.uk/publications/economic-impact-assessment>

[再掲]独Max Planckの試算と提案

- 1論文あたり購読料は3,800ユーロ
- 1論文あたりAPC単価は2,000ユーロ
 - <http://dx.doi.org/10.17617/1.3>
- 現在の購読料を振り返れば追加のコスト無しでOA実現！
 - <http://www.berlin12.org/>

[再掲] 転換契約

- 購読費用 + APCを一括契約
 - 所属研究者は論文にアクセスできる、だけではなく追加費用なしでハイブリッドOAに
- いずれは購読費⇒APCに全読み替え
 - そして完全OA雑誌に「転換」する
- 完全OA雑誌でも一括契約は普及

なんか話がおかしくない？

ポイントは「転換」

- いつ完全OAに「転換」するのか？
- 完全OAならほぼ「購読」のみ機関は一括契約の必然性がなくなる
- そこで契約機関が減った分を研究集約型機関にどれだけ載せてくるか？
- 総体としてのコストが変わるかどうかはそこ
 - 出版社は変えまいとしてくるはず

OAならコストは安くなるはずでは？

- ものの価格はそういう決まり方をしない
 - ×いくらかかるか
 - ○いくらで売れるか
 - 安く参入してくるところもある
 - でも値上げしてもいいと踏めば上げてくる
- 自分でやれば安くできる
 - **ダイヤモンドOA**：リポジトリ・紀要…